

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
基本方針4 「伝統文化等の継承」												
施策2 地域の特徴となる文化芸術の形成												
		【4-2-1】	地域の特徴的な文化資源の発掘	歴史の中で培ってきた生活文化、伝統芸能、文化的景観等、市民に愛される地域の特徴的な文化資源を発掘する取組について実施する。	心身の健康 地域への愛着 共生社会の実現 地域の活性化	実施	31	文化振興課 みどり公園課 社会教育課	伝統文化等継承事業補助金について市報や市ホームページにて周知を行い、団体を募集した。その結果、3団体より交付申請があり、保二小どんど焼き実行委員会へ74,264円、上向台どんど焼き実行委員会へ16,826円、明保中どんど焼き実行委員会へ100,000円を交付した。  下保谷四丁目特別緑地保全地区は、武蔵野地域に見られる典型的な散居型屋敷林の面影を現代に伝えている施設であり、4月3日及び12月3・4日に一般公開イベントを実施し、施設の周知に努めた。  下野谷遺跡の発掘調査や遺物調査を継続して行い、新たな価値の発見に努めた。	A  A  B	伝統文化等継承事業補助金交付制度を通し、地域の伝統文化について発掘する取組を実施することができた。  地元のボランティア団体及び武蔵野大学の学生とみどり公園課の協働によりイベントを開催し、多くの方にご参加いただいた。  下野谷遺跡の調査・研究を行い、文化資源の発掘に努めた。	引き続き、地域の伝統文化について情報収集に努め、文化資源を発掘する取組について検討を行う。  令和3年度に策定した保全活用計画に基づき、下保谷四丁目特別緑地保全地区において、一般開放の回数を増やしたり、四季折々のイベントを実施することにより、新たな文化資源の活用の可能性を発掘できるよう努めていく。  引き続き、様々な形での調査・研究を行い、地域の特徴ある魅力的な文化資源の発掘に努める。
		【4-2-2】	図書館の地域資料の活用	地域資料のうち、市民の文化芸術に関する情報の収集・保存・公開について、その活用を検討する。	心身の健康 地域への愛着 共生社会の実現 地域の活性化	実施	31	図書館	図書館の地域・行政資料の収集、提供、保存業務の中で実施した。	A	資料収集、形態や内容に合わせた保存と提供(公開)について、都度個々に検討して取り組んだ。	図書館の地域・行政資料の収集、提供、保存業務を継続させる。
基本方針5 「交流による活動の拡大・活性化」												
施策1 障害者や外国人など多様性への理解と交流の促進												
								文化振興課	市民文化祭、多摩六都事業、「対話による美術鑑賞」事業(子ども)、都市間交流事業(下郷町)、国際化推進事業を実施し、外国籍市民や障害を持つ市民、幅広い年齢層の市民が文化体験やワークショップ等交流することができた。	A	新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、多様な市民に対し、交流等をする機会を提供することができた。	引き続き、多様な市民が参加・交流できるイベント等を検討する。

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-1-1】	多様な市民が交流できるイベントや事業の実施	多様な市民が参加し、交流することができるイベントを実施する。	心身の健康 共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	地域共生課	当市の地域共生社会の実現について考える「ともに生きるまちづくりフェス」をアスタセンターコート及びA&A田無スポーツセンターにて開催した。	A	新型コロナウイルス感染症への感染対策を行いながら、イベントを開催することが出来た。	様々な開催方法を検討しながら、開催継続を検討する。
高齢者支援課	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できるサロン活動である「街中いこいなサロン」は令和3年度末時点で、32団体が登録して活動している。(令和2年度:30団体)							A	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できる「街中いこいなサロン」に対する活動支援を行った。	登録団体を育成し、団体間の交流の機会などを設ける。 また新型コロナウイルス感染症の流行下においても継続的な活動が実施できるよう状況に応じた支援を行う。		
障害福祉課	・例年実施しているフレンドリーまつりが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止になったことで、利用者の活動の場が減少した。 ・保谷障害者福祉センター文化祭は新型コロナウイルス感染症拡大防止により縮小して実施した。 ・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・障害者週間において、きらっとにてバラスポーツイベントを開催した。							A	複数の団体・市民が参加することができるイベントを実施した。	引き続き、多様な市民が参加できるイベントを実施する。		
児童青少年課	児童館・児童センターの利用やイベントにおいては、基本的に多様な児童が参加し、交流するものを実施している。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で行事は大幅に減少したが、子どものニーズを把握しながら、各児童館の行事にて実施している。	今後も継続して多様な人々が参加することができる事業を実施する。		
スポーツ振興課	スポーツ推進員事業として、障害の有無にかかわらず誰でも参加できるENJOYニュースポーツ事業を開催した。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で回数は減少したものの実施した。	多様な市民が参加し、交流できるイベントの実施を検討する。		
協働コミュニティ課	オンラインで開催したパリテまつりで、性的マイノリティや外国文化の紹介を行う団体による講演会のライブ配信や活動紹介動画の公開を行った。							A	緊急事態宣言の発出により、イベントを実施できなかったが、実施に向け取り組んだ。令和3年度も多様な市民による交流イベントの実施に向け、実行委員の意見を伺いながら、安全な実施方法について検討する。	新型コロナウイルス感染症の影響下での、多様な市民による交流イベントの実施について検討する。		
公民館	・4館で、幅広い世代の市民が交流する機会として、公民館や地域で活動する文化芸術団体のステージ発表や作品展示等を行う地域交流事業を実施/ヤギフェス(柳沢)、芝久保公民館まつり、ひばりが丘フェスティバル、駅前フェスタ(保谷駅前) ・障がいのある人もない人もともに参加する事業を実施/イスに座ってやぎさわディスコ(柳沢)、インクルーシブな社会をめざす講座(谷戸) ・異なる文化背景をもつ市民の話を聞く事業/多文化カフェ(保谷駅前)							A	4館で、多様な市民が参加、交流する機会として、コロナ禍に対応した方法で、地域交流事業を実施した。	全館で、多様な市民が参加、交流する機会として、コロナ禍に対応した方法で、地域交流事業を実施する予定。		
図書館	多文化サービス「いろいろなことばでたのしみおはなし会」 田無公民館(11月から令和3年3月まで11回実施、68名参加) いずれの回も、市内在住のミャンマー、中国、韓国出身の読み手の方に、英語、中国語、韓国語による絵本の読み聞かせやうたあそび、母国の文化の紹介などをしてもらった。							A	外国人住民と日本人住民との交流が、身近な話題から広がっていったため。	今後も多様な市民が参加できるイベント等を検討する。		

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-1-2】	市民や団体等による共生社会を支える活動の推進	市民や団体等による共生社会を支える活動を推進し、活動団体等が実施する公演や発表において、多様な市民が参加できるように支援する。	心身の健康 共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	文化振興課	NPO法人との共催により、留学生ホームビジット、日本語スピーチコンテスト等の事業を実施し、多様な市民が参加できるようNPO法人に対し、支援を行った。	A	NPO法人による新型コロナウイルス感染症対策のリスク評価や活動団体間での感染症対策等についての助言等支援を行い、事業をオンラインで開催することができた。	引き続き、多様な市民が参加できるよう、NPO法人に対し、支援を行う。
地域共生課	「地域の縁側プロジェクト」の居場所やほっとネット推進員による居場所活動において、活動についての相談の対応、支援を行っている。							A	活動に対する相談、支援を行えている。	調整会議等を通じて、引き続き地域福祉コーディネーターと連携を図り、ニーズの把握に務める。		
高齢者支援課	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できるサロン活動である「街中いこいなサロン」は令和3年度末時点で、32団体が登録して活動している。(令和2年度:30団体)							A	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できる「街中いこいなサロン」に対する活動支援を行った。	引き続き登録団体を増やすとともに、コロナ禍の状況の中で、団体の継続した活動の支援や、立ち上げ、運営のための支援を行う。 またコロナ禍においても継続的な活動が実施できるよう状況に応じた支援を行う。		
障害福祉課	・例年実施しているフレンドリーまつりが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止になったことで、利用者の活動の場が減少した。 ・保谷障害者福祉センター文化祭は新型コロナウイルス感染症拡大防止により縮小して実施した。 ・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・障害者週間において、きらっとにてパラスポーツイベントを開催した。							A	市内障害福祉団体が活動内容を発表する場を提供し、多様な市民が参加した。	引き続き、団体の活動発表及び多様な市民参加ができるイベントを実施する。		
児童青少年課	・市内高校生及び近隣高校生が実行委員を担い、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントについては、コロナ禍ではあったものの実行委員会を立ち上げ、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントも実施することができた。							A	全市域を対象に高校生年代らが企画制作し発表する場の機会の提供とサポートを行うことができた。	参加団体を増加させる。令和3年度はこもれびホールでの実施だったため、今後もこもれびホールと連携を図る。また、別の会場での実施も含めて今後も検討する。		
スポーツ振興課	多様な市民が参加できるオランダ散歩事業を実施した。また、総合型地域スポーツクラブや体育協会においても、散歩事業やノルディックウォーキング事業を実施した。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で、ポッチャ教室は中止になったものの屋外事業は実施した。	共生社会の実現に向けて取り組む。		
協働コミュニティ課	オンラインで開催したバリテまつりで、男女平等や性的マイノリティ、外国文化の紹介を行う団体、ITの普及啓発を行う団体、福祉、子育て、健康、終活など、様々な活動を行う団体による講演会のライブ配信やアーカイブ配信を行い、幅広い層の市民に参加・視聴をいただいた。							A	保育・手話通訳者設置の対応をすることで、幅広い市民が参加できるような取組みを実施することができた。	今後も継続して保育の設置、手話通訳者の配置を検討する。		
公民館	・市民団体が企画、運営する事業を、審査の上、団体と公民館の共催事業として実施する公民館市民企画事業を実施し、市民団体の活動を支援している。 令和3年度の実績 利用団体:13団体、実施事業:14事業 ・ポスター掲示、チラシ配架、公民館だよりへの案内掲載等により、市民団体による催し等の広報に協力した。							A	公民館は社会教育施設であるので、市民団体が対象となるが、日常的、継続的に市民の活動を支援している。	引き続き、公民館市民企画事業やポスターの掲示・チラシの配架・公民館だよりへの案内の掲載等の広報に関する支援により、市民団体の活動を支援する。		

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
	<p><b>施策2 他分野と結びつけた文化芸術活動・交流の促進</b></p>											
		[5-2-1]	各関連分野との連携による文化芸術事業の実施	観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の推進施策と結びつけた事業を実施する。	共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	<p>文化振興課</p> <p>・圏域5市在住・在学の中高校生で障害のある方を対象に、多摩六都フェアパラアート制作ワークショップを全4回実施し、パラアートを制作した。また、圏域5市在住・在勤・在学で障害のある方を対象に絵画作品を募集し、展覧会を実施した。</p> <p>・市民文化祭期間中に「日本の文化体験フェス」in 市民文化祭を全10体験実施し、外国籍市民1人が参加した。</p> <p>・保谷こもれびホール指定管理者が、西東京市在住のエジプト出身者を招いてエジプトに関するトークイベントを実施した。また、コロナ禍で共催で実施予定の「市民名画座」の中止が続いたため、代わりに自主企画として「こもれび映画会」を2回実施(1回目「日日是好日」では映画で使用された地元製造の干菓子販売、2回目「いわさきちひろ 27歳の旅立ち」では練馬区のちひろ美術館と提携して事前講座とプレトークを実施)した。その他、こもれびピースフル・クリスマスにおいて、環境に優しい社会をテーマに、市内のフラワーショップと連携し、ロスフラワーを活用、エコプラザのリサイクル図書を提供、アースディネットよりSDGsについての展示を実施した。</p>	A	国際交流や福祉・環境等の分野と連携を取りながら、文化芸術事業を実施することができた。	引き続き、他分野との連携を図り、文化芸術事業を実施するとともに、新たに連携を図ることができる事業の実施を検討する。	
								<p>高齢者支援課</p> <p>高齢者大学(総合課程講座)においては、「健康」「生活」「科学」「地域」など様々な分野の講座を実施している。 高齢者大学は、延べ32回、606人が参加した。(令和2年度:30回、559人)</p>	A	高齢者大学では、異なるジャンルの多様な講座を一括して受講することができる。	今後も高齢者大学の講座内容を検討する際には、多くの高齢者の興味・関心を引く幅広い内容の講座を一括して実施できるよう検討する。	
								<p>障害福祉課</p> <p>・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・障害者週間において、きらっとにてバラスポーツイベントを開催した。 ・共生フェスにおいて、お子さんから高齢の方まで、障害のある方もない方も、多様な市民が参加し、交流するイベントを実施した。</p>	A	他分野の部署と連携して実施した。	引き続き、関連分野の推進施策と結びつけた事業を実施する。	
								<p>健康課</p> <p>ルピナスまつりについて、中止となったため、事業を実施できなかった。令和4年度の事業については、引き続きコロナ禍においてもコンセプトとしている世代間交流が図れる事業の実施方法を検討する。</p>	B	発達に係る相談や教材制作コーナー等事業の実施内容について、コロナ禍においても効果的に行える内容とするための検討を行った。	引き続き、交流の促進を図っていくために、発達支援の理解や積極的な啓発を行う。	
								<p>児童青少年課</p> <p>・市内高校生及び近隣高校生が実行委員を担い、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントについては、コロナ禍ではあったものの実行委員会を立ち上げ、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントも実施することができた。</p>	A	企画・立案・司会・運営までを、高校生が全て行う事業を、会議の支援を含めて本番まで実施することができた。	継続して利用者との意見交換の場を設けながら、事業を実施する。	
								<p>スポーツ振興課</p> <p>多摩六都科学館において、東京パラリンピック競技大会の採火式を無観客で開催し、市HP等でも公表した。</p>	A	文化施設である科学館において、スポーツ関連事業を実施できた。	文化芸術分野事業をスポーツ施設で実施する。	
								<p>協働コミュニティ課</p> <p>オンラインで開催したパリテまつりで、男女平等や性的マイノリティ、外国文化の紹介を行う団体、ITの普及啓発を行う団体、福祉、子育て、健康、終活など、様々な活動を行う団体による講演会のライブ配信やアーカイブ配信、団体の活動紹介動画の公開を行った。</p>	A	新型コロナウイルス感染症の感染状況に対応し、オンラインによるイベントの実施や専用ホームページでの動画紹介などを行い、多くの市民に参加、視聴をいただいたため。	令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれるが、工夫して可能な範囲で事業の実施を図る。	

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
								都市計画課	平成31年3月に「第二期西東京市人にやさしいまちづくり推進計画」を策定。具体的な施策について、取り組み状況等を定期的に調査を行う予定。	A	令和3年7月に関係各課に取り組み状況等の調査を実施。	令和4年度以降も調査を行う予定。
								社会教育課	・学校教育との連携では、小学校12校へのまちなか先生講座(学校出前授業)を行い、小・中学校5校の郷土資料室への団体見学を受け入れた。 地元の商店では、遺跡キャラクター「しーた」「のーや」などを活用した商品の販売を継続して行っている。	A	関連する分野との連携を進めることで幅広い層への文化財の周知ができ、地域へ愛着の増進にもつながった。特に学校からの団体見学を多く受け入れ、文化財や歴史に興味を持つきっかけを作ることができた。	引き続き関連分野への理解を求め連携を広げる。
								公民館	令和2年度に上位計画である総合計画・教育計画及び庁内他課の関連計画をふまえて、令和3年度から5年度までの中期事業計画を作成。中期事業計画で定めた基本目標・基本方針に基づき、事業を実施した。	A	関連分野の計画において求められている公民館の役割をふまえて事業を実施した。	引き続き、中期事業計画をふまえて事業を実施する。関連する庁内他課との連携についても検討する。
								図書館	8月に柳沢図書館シニアコーナーをリニューアル、広報用しおりを作成し市内図書館と高齢者支援課窓口にて配布した。9月に高齢者支援課主催「認知症キャンペーン月間」の一環で市内全館で認知症関連資料展示、谷戸図書館ではパネル展示を行った。	A	高齢者支援課と協同で行うことにより、より地域に根差した情報の提供と相互での広報ができた。	引き続き、他課と連携し地域に根差した情報提供を目指した企画を検討する。
<p><b>施策3 多様な担い手の連携によるまちづくりへの促進</b></p>												
		【5-3-1】	活動団体等の主体間連携の促進	市内各地で行われている各イベントの活動団体等の主体同士が連携できるように支援する。	地域への愛着地域の活性化	実施	33	文化振興課	・例年、市民まつりにおいて、多くの活動団体と連携をしているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和3年度は休止した。 ・市民文化祭は、市と西東京市民文化祭実行委員会の共催で開催し、77団体が参加した。	A	市民まつりについては、令和3年度は実施に至らなかったが、新型コロナウイルス感染症対策等について、実行委員会と検討し、連携を深めることができた。また、市民文化祭について、多くの団体が連携できるよう支援することができた。	引き続き、各実行委員会と協力し、市民まつりや市民文化祭の検討状況を共有しながら活動団体間での新型コロナウイルス感染症対策を検討するとともに、令和4年度の実施に向けて、活動団体の主体同士が連携できるよう支援を行う。
								協働コミュニティ課	市民協働推進センターゆめこらぼにおいてNPO市民フェスティバルをオンラインとパネル展を実施し、市内のNPO等市民活動団体等、多様な主体同士が交流しながら活動内容を市民に紹介する取組みを行った。	A	NPO市民フェスティバルを開催することで、地域の多様な主体が交流でき、連携に繋がる場を設定することができた。	今後も継続して、多様な主体が交流・連携できる取組みを行っていく。
								文化振興課	・市民文化祭では、展示の部において武蔵野大学(書道と造形)に参加があったほか、「日本の文化体験フェス」in 市民文化祭の書道体験では講師を依頼するなど連携を図った。 ・日本語スピーチコンテストにて、武蔵野大学の参加やコンテスト審査等で連携を図った。	A	各事業を通じて武蔵野大学との連携を図ることができた。	引き続き、武蔵野大学との連携を図るとともに、市内外との大学との連携を深める。
								企画政策課	武蔵野大学:相互協力事業10事業、附属9機関への委員就任11名(実数) ※早稲田大学及び東京大学との具体的な事業については、スポーツ振興課及び教育企画で回答	A	新型コロナウイルス感染症の流行状況下においても、事業協力及び人材交流を図ることができた。	引き続き市内にある大学との連携について、庁内各課への情報提供を行い、様々な事業について相互協力を図っていく。

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-3-2】	市内大学等との連携の充実	市内にある武蔵野大学、早稲田大学、東京大学と人材交流や育成、文化芸術関連事業等において連携を図る。	地域への愛着 地域の活性化	実施	33	職員課	夏季と春季に分け、武蔵野大学を含む市内外の大学の学生に対してインターンシップ(就業体験)を実施した。(夏季:新型コロナウイルス感染防止のため実施中止/春季:1大学から1名受入れ)	A	市での就業体験を通して、学生の就業意識の向上や市政に対する理解を深める機会を提供した。	引き続き大学と連携を図りながら実施していく。
障害福祉課	福祉実習として、武蔵野大学の学生に障害者差別解消法・障害者総合支援法の講義や市内事業所での実習を行った。							A	市内大学と連携して福祉人材の育成を行った。	引き続き、市内の大学と連携して人材の育成を実施する。		
健康課	早稲田大学と一緒に作成した市の歌に合わせて行う「西東京しゃきしゃき体操」の普及啓発を講座等で行った。また、体操を普及するための「リーダー養成講座」では、大学教授による講座を実施した。							A	様々な年代に体操を普及することができた。	引き続き大学と連携を図りながら普及、啓発を実施していく。		
保育課	武蔵野大学との相互協力事業として実習の受入を実施した。							A	武蔵野大学と連携し、協力事業を実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りながら、実習生の受入を継続実施する。		
児童青少年課	新型コロナウイルス感染症の影響により、武蔵野大学との連携のフィールドスタディーズが中止となった。看護学部の実習の受入れは継続実施した。							A	看護学部実習のみではあったが、生徒と児童がふれ合い造形等に取り組んだ。	今後も継続して、市内大学との連携を図る。		
スポーツ振興課	例年どおり、早稲田大学の協力による少年野球教室(春・秋)を予定していたが、事前調整の段階で、大学側より、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い今年では中止する旨の連絡があり、中止となった。							C	事業の実施を予定していたが、実施について市内大学と検討を行うことなく中止となった。	引き続き、市内大学との連携を図る。		
住宅課	武蔵野大学と連携し、フィールドスタディーズの学生を受け入れ、学生による空き家等の現地調査及び調査結果を踏まえた政策提案並びに成果発表を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となった。							A	結果的には中止となってしまったが、新型コロナウイルス感染症拡大状況の中で、武蔵野大学と密に情報共有を行うとともに、開催に向けて最後まで調整することができた。	令和4年度は、令和3年度に想定していた内容で実施予定である。		
教育企画課	・東京大学:例年実施していた東大田無演習林観察会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。 ・早稲田大学:「理科・算数だいすき実験教室」について、例年対面で行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで実施した。							B	理科・算数だいすき実験教室は中止とせず初のオンラインによる試みで実施することができたが、東大田無演習林観察会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止となったため。	引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じつつ、事業実施の方法を模索しながら進めていく。		
教育指導課	大学からインターンの受け入れを行い、小・中学校の教育に係る内容にふれることができるようにしている。また、学生ボランティアを受け入れもっており、配慮が必要な児童生徒への支援を行っている。	A	大学との人材交流を積極的にできた。	今後も人材交流を引き続き行っていく。								

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
								社会教育課	文化財保護審議会委員として早稲田大学、武蔵野大学教授を任命し、西東京市の文化財保護・活用計画の取組状況や下野谷遺跡の整備について意見をいただいた。	B	今後計画を進めていくうえで有意義な意見を伺うことができた。	引き続き文化財保護審議会を定期的に行い、文化財保護・活用計画の取組状況や下野谷遺跡整備についての意見を伺う。
								図書館	①武蔵野大学との連携事業はコロナ対応のため大学において図書館の学外者の利用を中止。 ②武蔵野大学へ職員を講師として派遣する事業実施。 12月20日(月)武蔵野大学日本文学部1年生授業『読書への誘い』への講師として職員を派遣。	B	①コロナ対応で予定していた事業が一部中止となったため。 ②大学生に授業の一環として西東京市図書館の活動を広く周知し、書架構成や企画の参考として学生アンケートを実施したことで、図書館事業へのフィードバックを行った。	大学側の状況が整えば再開できるよう準備を進める。例えば、コロナのために延期となっている図書館司書課程を履修している学生ゼミとの共同企画をすすめるなど。
		【5-3-3】	教育機関とのイベントの連携	市内にある教育機関と連携して、文化芸術の活動者同士が交流することができるイベントを実施し、個人及び活動団体間の連携の充実を図る。	地域への愛着 地域の活性化	検討	33	文化振興課	・教育委員会との連携を図りながら、「対話による美術鑑賞」事業を小学校7校で実施した。 ・例年、市民まつりにおいて、絵画の募集等、教育機関と連携しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和3年度は休止した。 ・例年、市民文化祭において、市内小中学校、高校から展示や合唱の部への参加、など教育機関と連携しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和3年度の連携は困難と判断し、実施しなかった。	A	教育委員会と連携し、「対話による美術鑑賞」事業を実施することで、教育委員会と市民ボランティアの連携を図ることができた。また、令和3年度は中止となった事業についても教育機関との連携を見据えた実施に向けての検討と準備を行うことができた。	引き続き、学校と教育委員会との調整及び連携を図りながら、「対話による美術鑑賞」事業を実施する。また、市民まつりや市民文化祭においても、実施に向け検討し、学校と教育委員会との調整及び連携を図る。
企画政策課	武蔵野大学:相互協力事業10事業、附属9機関への委員就任11名(実数) ※早稲田大学及び東京大学との具体的な事業については、スポーツ振興課及び教育企画で回答							A	新型コロナウイルス感染症の流行状況下においても、事業協力及び人材交流を図ることができた。	引き続き市内にある大学との連携について、庁内各課への情報提供を行い、様々な事業について相互協力を図っていく。		
健康課	食育推進の一環として、保育園児及び小学生から「やさい」をテーマとしたイラストを募集し、入選作品12点を掲載した野菜たっぷりカレンダーを作成した。また応募作品358点の中から一次選考を通過した78点に関して、保谷保健福祉総合センターで「野菜たっぷりカレンダーイラスト原画展」を行った。							A	健康課、保育園、小学校の栄養士が連携し、野菜たっぷりカレンダーの作成及び原画展を実施した。	今後も継続して保育園及び小学校と連携し、食を通じた地域の健康づくりの一環として、野菜たっぷりカレンダー事業を実施する。		
児童青少年課	新型コロナウイルス感染症の影響により、武蔵野大学との連携のフィールドスタディーズが中止となった。看護学部の実習の受入れは継続実施した。中高校生年代プロジェクトにおいて、市内支援学校や高校に依頼して参加者を募った。							B	看護学部実習のみではあったが、生徒と児童がふれ合い造形等に取り組んだ。全市域を対象に高校生年代らが企画制作し発表する場の機会の提供とサポートを行うことができた。	今後も継続して、市内大学・高校との連携を図り事業の充実を図る。		
スポーツ振興課	例年どおり、早稲田大学の協力による少年野球教室(春・秋)を予定していたが、事前調整の段階で、大学側より、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い今年度は中止する旨の連絡があり、中止となった。(再掲)							C	事業の実施を予定していたが、実施について市内大学と検討を行うことなく中止となった。	引き続き、教育機関(大学)との連携を図る。		
教育企画課	市内小学校児童による東大演習林観察会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。							B	東大演習林観察会は新型コロナウイルス感染症により中止となったが、代替案として多摩六都科学館による実験ショーを行い、市内小学校児童の参加につながったため。	引き続き、必要に応じて別形態での実施を検討するなど、子どもたちの学びの機会や地域の方々との交流の場を無くさないよう進めていく。		
教育指導課	新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、地域の方を学校に招聘し、琴の演奏等の日本の伝統文化に関する体験的な学習の機会を設定することができた。オリンピック・パラリンピックの学校観戦プログラムが中止となったため、アスリートを応援する動画や色紙、掲示を各学校において行った。							A	新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながら、地域交流ができた。	新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながら、今後も地域と交流をしていく。		

【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価(令和3年度分)」調査表

資料3

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画員	所管課	(令和3年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
								社会教育課	多摩六都科学館との共催事業を行った。実施には市民や学生の協力を得た。	B	連携により、歴史文化に興味を持つ層以外にも、歴史文化、文化財の魅力を伝えることができた。	引き続き、市民団体や多摩六都科学館、市内大学などと連携して事業を実施する。
		【5-3-4】	市内事業者等との連携の充実	市内事業者等と市民が連携して文化芸術分野の事業を実施することで、市内の交流の活性化を図る。	地域への愛着 地域の活性化	検討	33	文化振興課	例年、市民まつりにおいて、市内事業者等と市民の連携を図ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和3年度は休止した。	A	市民まつりについては、実行委員会と、市内事業者等を交えながら新型コロナウイルス感染症対策のリスク評価等を行い、連携を図ることができた。	引き続き、市内事業者等と協力し、イベントを実施することで、多くの団体同士が連携できる場を提供するだけでなく、来場した市民との交流の場としていく。
								産業振興課	補助金交付事業である例大祭委員会主催の田無神社例大祭(田無神社・田無商業協同組合)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、神輿巡業などを中止とした。	C	実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、実施は困難と判断し、中止とした。	今後も地元連携型イベント事業を活用し、商店街と地域の団体の連携が進んでいくことが望まれるが、商店街の体制等により、継続実施が難しくなっている。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りながら、多くの人が集まるイベントをどのように実施するのか検討していく。